

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・企業がキャンペーンなどを打ち出すため、その印刷物などが増えると予想される。
		商店街（代表者）	・天候が落ち着き、これから旅行シーズンになるので売上増につながる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これからの時期はギフトで生花や切花を贈ることが増える。店内も改装し、広告や店内の展示を任せられる従業員を雇用した。例年通り、売上も上がってくる。
		百貨店（営業担当）	・お中元は、購買客数とお届け件数が減少した。一方、商品単価と客単価は増加した。特に持ち帰りコーナーでの単価が上がり、高価な贈り物をする傾向が目立った。また、店頭催事場での自社カードの新規入会が好調で、目標を大きく上回り、今後の利用が期待できる。
		百貨店（販売促進担当）	・プレミアム付商品券の販売が控えており、購買意欲に勢いがつくことを期待している。
		百貨店（店舗事業計画部）	・秋物の洋服を例年よりも早い時期に規模を広げて展開したところ、客の反応がよかった。これまではバーゲンなどで低価格を訴求すると、反応が良かった印象がある。客の志向が徐々に変化していると実感している。
		コンビニ（販売促進担当）	・大きな伸びではないが、伸びつつ横ばいでいく。
		衣料品専門店（チーフ）	・涼しくなってくると、おしゃれな客は早めに秋物を購入するので、若干の売上の伸びが見られる。
		家電量販店（広報・IR担当）	・昨年の消費税増税の反動もほぼなくなり、今後、大きく落ち込むことはないと予測する。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・秋口にかけて気温が冷え込んでくる。それに伴い、例年コーヒーの需要も増えるので、秋口から年末にかけて売上は増えると予想する。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・9月の大型連休に国民文化祭が開催されるので、今までのマイナスを取り戻すチャンスがきている。
		高級レストラン（従業員）	・地元の球団が優勝すると客の様子も変わるので、少しは景気も良くなる。
	設計事務所（所長）	・受注予定額は右肩上がりになっている。	
	変わらない	商店街（代表者）	・客はほとんど消費をしようとしな。必要な物があっても、安価な商品だけを買う。報道では物価高騰や好景気であると言われているが、一般消費者のほとんどが、生活が苦しくなっている。収入は変わらず、税金が増えているので、消費は増えない。
		商店街（代表者）	・地方では収入の改善がほとんどみられず、景気の良さを実感できない。
		商店街（代表者）	・これ以上良くなる要因もなく、今の状況が続く。世界同時株安など不安もあるが、落ち込む要因もない。
		商店街（代表者）	・好転する材料も悪化する材料も、予測できない。
		商店街（代表者）	・9～10月はやや涼しくなって食欲が出てくる季節だが、スーパーや百貨店、コンビニエンスストアなどとの競争で、零細企業の商店街では厳しい状況である。
一般小売店〔青果〕（店長）		・果物関係は、長雨の影響や高温多湿のために味が良くないようだ。みかんや柿などは作付けも生産量も少ないうえに味も悪そうで、今後も厳しい状況が続く。	
一般小売店〔茶〕（販売・事務）		・すぐに好転するわけではない。	
百貨店（売場担当）		・プレミアム付商品券が、売上シェアの約10%を占めるようになった。使用期限は10月いっぱいだが、早めに使いきる客が多いので、そのあとの景気がどうなるのかわからない。現在の市況を見ると悪い要因がない。台風が来ても売上は前年を超え、客単価、入店客数ともに前年をクリアしている。さらに今月のインバウンドの売上が、前年比358%とかなり伸びている。大型のクルーズ船が入港すると売上が非常に伸びるので、注視しなければならない。	
スーパー（店長）		・天候で青果の相場がかなり高かったが、最近落ち着いてきた。青果の相場で店の売上が左右される状況で、一般の食品は前年並である。米の単価が昨年より下がっていることが、売上に影響しており、この流れが2～3か月は続く。今後1～2か月の見通しはまだ厳しいと考えている。	
スーパー（店長）		・現在の状態がしばらく続く予想している。	
スーパー（店長）		・プレミアム付商品券の効果が9月以降は薄れて、衣料品や住関連商品の不振が続く。	

スーパー（総務担当）	・前年に比べれば売上・客数ともに大幅に上回っているが、ここ数か月の業績はあまり伸びておらず停滞気味となっている。	
スーパー（経理担当）	・肉類の高騰、生魚の不漁にもかかわらず全体的に売上が好調であり、この傾向が続いていく。	
スーパー（統括者）	・株価や中国の景気動向など先行きが見えにくく、今後の景気がどうなるかが不明である。	
コンビニ（経営者）	・非常に生活に密着した商品売っており、必要な物以外は買わないという傾向がずっと続いている。これからもこの傾向は変わる要素が見受けられない。	
コンビニ（エリア担当）	・実質賃金が上がっているわけではなく、特に地方では今後も厳しい状況が続く。この状況を改善する施策が必要だ。	
コンビニ（エリア担当・店長）	・今からはおでんやホットスナックが売れる季節になるが、その分、冷たい調理麺が売れなくなるのでプラスになることはあまり期待できない。台風が来るたびに一時的に売上は伸びるが、その反動で台風が去った後に売上が落ち込む傾向がある。	
衣料品専門店（店長）	・プレミアム付商品券の発売効果はすでに弱まっており、客の購買意欲を刺激する施策が更に必要となっている。	
衣料品専門店（店員）	・季節を先取りして衣料品を買う客が減ってきている。一部の客は高額品でも買うが、多くの客は財布のひもが固く、売上が上がりにくい。	
衣料品専門店（取締役）	・3か月先の11月は冬物の実需期になる。寒くなればなるほど物が動く。客の財布のひもは固く、インバウンドの効果はファッション業界にはあまり波及していない。景気が良くなるような様子は全く見受けられない。	
衣料品専門店（総務担当）	・現時点において良くなる要素が全くない。	
家電量販店（総務担当）	・株価の急落が消費動向に悪影響を与えないか心配である。	
乗用車販売店（従業員）	・来年3月までは新型車も出ず、サービスや中古車、保険などで利益を出さないと黒字にはできない。	
乗用車販売店（総務担当）	・次回の新型車発売までは、現在の厳しい状況が続く。無駄なコストを削減しながら利益を出していく。	
乗用車販売店（代表）	・まだまだ地方では良くならない。	
住関連専門店（経営者）	・昨年の消費税増税以降、売上の回復に時間がかかったが、やっと先月あたりから好転の兆しがみられた。だが、中国の株安や景気の減速感などがあり、先行きは不透明で厳しい。	
住関連専門店（店長）	・しばらくは大きな動きもなく、良くも悪くもない状況が続く。ただ、それを市場の安定化ととれば、良い傾向といえるかも知れない。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は下げ止まった感があり、今後の価格は不透明である。9月の大型連休は前年より休日の並びが良く5連休となり、10月や11月も3連休がある。秋の連休などの行楽シーズンに、自動車利用による燃料油の増販や関連するカーケア商品の増販に期待したい。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・秋になるのが早ければ衣料品などには期待できるが、残暑次第である。	
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・当面は変わらないが、中国の経済不安でインバウンドが今までどおりに推移するかどうかが大きく影響する。	
理容室（経営者）	・来客数は少しずつ増えつつあるが、1人の客単価が落ちている。	
美容室（経営者）	・良くない話ばかり聞く。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・他業界の景気回復に伴い、介護業界の人員不足は加速することが想定され、対人サービスである業界全体の回復は今後なかなか見込めない状況である。	
設計事務所（所長）	・今月の景気が大体3か月先に結果として出るが、今月が変わらないので、2～3か月先も変わらない。	
住宅販売会社（従業員）	・展示場来場数がやや減少傾向にあり、今後2～3か月先の受注は大幅には改善することはない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街のテナントの空きが目立つ。零細店は売上が厳しい。プレミアム付商品券も一部の店しか使えず、零細店は置き去りになっている。
	商店街（代表者）	・やや厳しくなる。
	百貨店（営業担当）	・秋～冬から、円安や原材料高による値上がりが起きることが予想され、価格に敏感な客の購買力の低下が懸念される。

		スーパー（経営者）	・全体的に景気は伸び悩む。
		スーパー（店長）	・今後も商品の動き自体が良くなる要素がほとんどなく、食料品においてはやはり値上がりした商品自体が売れにくくなっている。今後もあまり伸びないと予想している。
		コンビニ（店長）	・アベノミクスは失速していると感じる。なにかの引き金で、急激なインフレが起きるかもしれない。
		衣料品専門店（店長）	・この秋も景気はやや悪くなる。
		家電量販店（店員）	・7月1日から始まったプレミアム付商品券の効果は、非常に絶大であった。ただ効果が続いたのは7月いっぱいまでで、8月は以前の売上と変わらない状態になった。皆、商品券を使い切ったようで、今後の伸びが見えない状況にある。駅ビルが開業してしばらく経つが開業効果も薄れ、少し厳しい状況になる。
		家電量販店（従業員）	・夏が終わり涼しくなってくるので、季節商材の需要が減る。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・景気回復が株高だけが頼りの表面的なものであったという認識が、一般に広がってきた。
		ドラッグストア（部長）	・中国の景気低迷により、インバウンドの客数が減少することが懸念される。
		観光型ホテル（スタッフ）	・9月は宿泊・レストランは順調に伸びているが、前年に比べると宴会の予約数がかなり落ち込んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・猛暑や悪天候の影響もあり、原材料費が軒並み高騰している。各取引先の協力もあり現状は何とかなっているが、長期化すると利益確保が更に厳しくなるため販売価格を上げざるを得ない。
		タクシー運転手	・日中の稼働は良いが、夜の繁華街の客がまったくいない。予約状態も良くない。
		競輪場（職員）	・他施設はどこも、販売額が前年比マイナスである。
		競馬場（職員）	・中国経済の影響により、株価が急下落している。規模が大きいため、日本への景気の影響も大きく、娯楽への参加意欲にもかかわる。
	悪くなる	家電量販店（店員）	・大物商品が動いて売上が良くなると、その後、反動がくる。8月は良かったが、9～11月は目玉商品がない。売上は落ちて状況は悪くなる。早めに寒くなれば話は別だが、そういうわけにもいかないだろう。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	食料品製造業（経営者）	・原料の収穫期に入り、原料が潤沢に供給され、1年のなかで最も生産量が増える時期となる。また商品も季節的に販売が増える時期となる。
	やや良くなる	繊維工業（営業担当）	・今の調子で2～3か月は続く。
		鉄鋼業（経営者）	・新規の物件が建築・土木共に乏しく、契約量が激減している。契約残は抱えているものの工事の遅延、また着工遅れなどで出荷が遅れて販売量も減少している。新規に着工となった建築物件が多少増えてきているため、秋口からは販売量が回復してくる。
		電気機械器具製造業（取締役）	・引き合いが続いている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・当初の生産計画より減少傾向であるが、月々でみると年末まで右肩上がりの生産数で推移していく。
		輸送業（総務担当）	・新規の受注により売上増が見込まれる。
		輸送業（総務）	・原油の単価が下がっているのが、費用面でプラスに働いている。
		金融業（営業）	・中国情勢などから方向感が分かりづらい。国際的な需要低迷も懸念されるが、今のところは製造業の国内回帰の動きが続き、景気は良くなると考える。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上がインバウンドの影響で好調で、今後も継続する。
		経営コンサルタント（社員）	・値段が高くても価値があるものであれば、消費者は購入する傾向にある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・ホームページからの問い合わせが増えてきており、企業の投資意欲が高まってきている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・9月は原料供給が極端に悪くなる見通しだ。工場の稼働が減り、売上減が避けられそうにない。8月の暑さで種鶏の卵が不足し、出荷が1か月ほど先延ばしになったのが原因だ。その反動で10月は鶏が増えすぎて、工場では処理できなくなると予想している。年末に向けて加工食品メーカーからの引き合いが強くなり、スーパーや居酒屋も秋の行楽シーズンに入って、好調になると期待している。
		農林水産業（営業） 家具製造業（従業員）	・国内在庫が少なく需要があるため、現状を維持する。 ・出店などの新規物件に陰りがみえるが、それでも前年同月比で10%以上は増えている。今の状況が今後も続いていく。

	窯業・土石製品製造業（経営者）	・商品群がどんどん変わり、長期で売れる商品が少なくなっている。卸である商社も苦勞しているようだ。産地全体で見ても、やや冷え込んでいる。
	金属製品製造業（事業統括）	・例年、下期に売上が集中する傾向にあるが、上期をばん回するまでには至らない。株価の低下が新たな懸念材料として出てきた。
	一般機械器具製造業（経営者）	・外的要因に左右される業種なので、受注量は顧客の実績や景気の影響が大きい。現状は不安定ではあるが、そこそこ良いのではないかと希望的観測を持っている。
	電気機械器具製造業（経営者）	・新規の仕事の獲得に注力する。また、人材が育っていないという問題があり、どのようにして人材を育てながら現状を維持していくかを考えている。
	建設業（経営者）	・客の話では変わらない。
	建設業（従業員）	・ここ最近では、受注がうまくいっている。見積案件もそこそこあるので、受注獲得に向けて頑張りたい。しかし、景気自体は今と変わらない。
	通信業（職員）	・社全体での受注は好調だが、部門単位では伸び悩んでいる。
	通信業（経理担当）	・当面、景況は変わらない。次の新たな公共投資への期待が大きい。
	金融業（従業員）	・良い材料が見当たらない。
	金融業（従業員）	・住宅投資や外食産業では持ち直しの動きが見られるが、自動車関連企業の回復は遅れ気味である。世界的な株安の影響もあり、先行きについては、慎重な見方をする人が増えている。
	金融業（得意先担当）	・プレミアム付商品券の効果が限定的であるという声が聞かれる一方で、公共工事の発注が増加しつつあると聞いている。人件費や材料費の高騰が、地域経済を圧迫しているという声もあるので、先行きは様子見である。
	金融業（調査担当）	・円安の影響を受け、企業業績は好調である。消費関連企業の売上も変化がない。
	金融業（営業担当）	・中国景気の後退による株価低迷の影響もあり、中小企業事業者の設備投資への意欲が後退している。
	新聞社 [広告] (担当者)	・海外旅行商品の広告出稿が回復するかどうかポイントである。各自治体から、ふるさと旅行券やプレミアム付商品券などの告知のための広告出稿はあるものの、一般企業は広告出稿に消極的だ。今後も前年割れの状況が続く見込みである。
	広告代理店（従業員）	・8月の新聞折込枚数は前年比95%と、相変わらず低調である。ただ、受注件数は98%で落ち込みはそれほど大きくない。需要は前年と同程度だが、1回の受注枚数が減少している。円安の影響で内需が拡大していないことが消費活動を低迷させている大きな原因で、それが広告費の削減につながっている。
	広告代理店（従業員）	・売上が前年をクリアすることはない。90%台で上下する状態が続いている。
	経営コンサルタント その他サービス業 [物品リース] (支社長)	・急に好転するとは思えず、現状が続くと予想している。 ・3月決算の企業は上期に集中して設備投資するケースが多い。2～3か月後までの投資計画をヒアリングしたところ、現況と変わらないそうだ。
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・8月に前倒しした受注が多く、その分、今後2～3か月は見込みが少ない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いの状況から予想すると、9月の受注量は8月の水準を下回る。
	その他製造業（産業廃物処理業）	・今後も相場が下がる一方ではないかと懸念している。
	建設業（社員）	・当地区は、公共工事の契約率が非常に低い。工事量も前年より減っているが、発注自体が少ないので契約率は上がらない。上半期は70%を目標にしているが、7月現在で30%を割り込んでいるので、目標達成は無理であろう。
悪くなる	経営コンサルタント（代表取締役）	・中国経済の落ち込みが波及して、世界中で金融市場などが厳しい状況になりつつある。時間が経過するにしたがって、これがボディーブローのように効いてくるのではないかと懸念している。長期的にどうなるかはわからないが、2～3か月後は影響が出始める時期に当たると考えている。
	その他サービス業 [設計事務所] (代表取締役)	・今後、新たに予算化される自治体の委託業務は少ないだろう。9月の補正予算で追加される建設や土木関連の事業も少ない。今後の景気が、悪くなる恐れがある。
雇用	良くなる	-

関連 (九州)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求職者が減少するなか、就業意欲がある層を掘り起こして労働市場につなげなければならぬ。扶養控除など制度面を見直した上で、家庭に入っている女性が柔軟に働ける場を作る必要がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、秋口から求人需要が増えることを期待しているが、当社の発行する求人情報誌をリニューアルするので、この機会に市場のニーズを捉えたい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・中国の経済状況など世界経済も気になるが、北部九州ではアジア、特に韓国からの旅行者が多く、今後も観光を中心に良い状況が続く。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・既存客や過去の取引先から、新規注文がない。欠員補充での注文はあっても、増員という雰囲気ではない。
		人材派遣会社（社員）	・ホテルの宴会への人材派遣を行っているが、サービススタッフの依頼は増えたものの、コンパニオンなどの依頼が少ない。
		人材派遣会社（営業）	・消費税への不安及び世界的株安への不安などがあり、急速な不況は考えにくい上昇も考えにくい。
		職業安定所（職員）	・中国の株価暴落などによる世界経済の後退が懸念されたが、現在は様子見の状況だ。雇用動向に与える影響は流動的で、今のところ事業主の雇用意欲が減ったり、逆に設備投資などを積極的に行って雇用を拡大させたりする要素は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人の大幅な増加は見込めない。月間有効求人倍率が1、2月及び3月に1倍を超えたが、4月は0.9倍台、5、6月は0.8倍台に落ちた。
		職業安定所（職員）	・企業へのヒアリングでは、建設業界の中小企業において政府の経済対策の効果がようやく表れてきて、業績に反映しているようだ。ただし、製造業、卸売・小売業、サービス業においては個人消費があまり期待できない。
		職業安定所（職業紹介）	・求人数について前年比では増加が続いているが、前月比では横ばい状態が続く。
		民間職業紹介機関（社員）	・客から労働者派遣法改正に関する問い合わせが増え、関心が高まっているのは感じるが、今後の動向についてはまだわからない。
		民間職業紹介機関（支店長）	・労働者派遣法の改正が確定しないと、顧客も新規注文、契約更新等に関してちゅうちょしている。派遣事業者としても販売活動しづらい面がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業の声や聞き取りでは、採用意欲は変わらない。ただし、外部環境によっては、採用人数の絞込みがあるかもしれない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・株価の乱高下という不安材料はあるが、現時点で新卒採用に影響は少ない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・株価の急激な悪化や円安により、企業のコスト圧縮の動きが目立ちそうだ。
	悪くなる	-	-